

AutoCAD/AutoCAD LT から IJCAD

環境設定ファイルの移行ガイド

How to transfer settings from AutoCAD /AutoCAD LT to IJCAD

Ver.2.0 : 2021 年 10 月

目次

ファイルの移行にあたって	2
はじめに.....	2
注意事項.....	2
作図環境関連のファイル.....	3
テンプレート (.dwt) ファイルの移行	3
フォントの移行	4
印刷スタイルテーブル (.ctb/.stb) ファイルの移行.....	5
プリンタの環境設定 (.pc3/) と説明 (.pmp) ファイルの移行	6
線種ファイル (.lin) の移行.....	7
シートリスト (.dsd) ファイルの移行.....	7
シートセット (.dst) ファイルの移行	7
メニューカスタマイズ関連のファイル	8
インターフェース (.cui/.cuix) ファイルの移行	8
旧式メニュー (.mnu/.mns) ファイルの移行	9
メニューにおけるマクロの記述について	9
コマンドエイリアス (.pgp) ファイルの移行.....	10
ツールパレットの移行.....	11
プロファイル (.arg) ファイルの移行	11
開発 API を使用したカスタマイズの移行 (移植)	12
LISP ファイルの移行	13
VBA プロジェクトの移行	14
ObjectARX プログラムの移行.....	14
.net プログラムの移行	15
ARX (GRX) /ADS、.NET の API を使用した開発を行う場合の注意点	15
ファイル種類と移行可否 一覧	16

ファイルの移行にあたって

はじめに

この文書は、AutoCAD、AutoCAD LT の環境を IJCAD へ移行する際の要点についてまとめたものです。文中において AutoCAD の記載は、AutoCAD LT も含んでいるとお考えください。

また、ご使用の AutoCAD のバージョンによっては、対応していない場合があります。IJCAD には無料体験版がございますので、**事前にぜひ体験版にて移行をお試しください。**

注意事項

AutoCAD から IJCAD へ環境設定に関するファイルを移行するにあたり、AutoCAD 上でご自身で設定・作成されたファイルを対象として解説いたします。

なお、**AutoCAD デフォルトのファイル(製品と一緒にインストールされるファイル)は、IJCAD やその他の CAD にコピーすることは AutoCAD の使用許諾上、禁止されております。**

AutoCAD ならびに AUTODESK の使用許諾違反とならないようご留意の上、移行をお試しください。

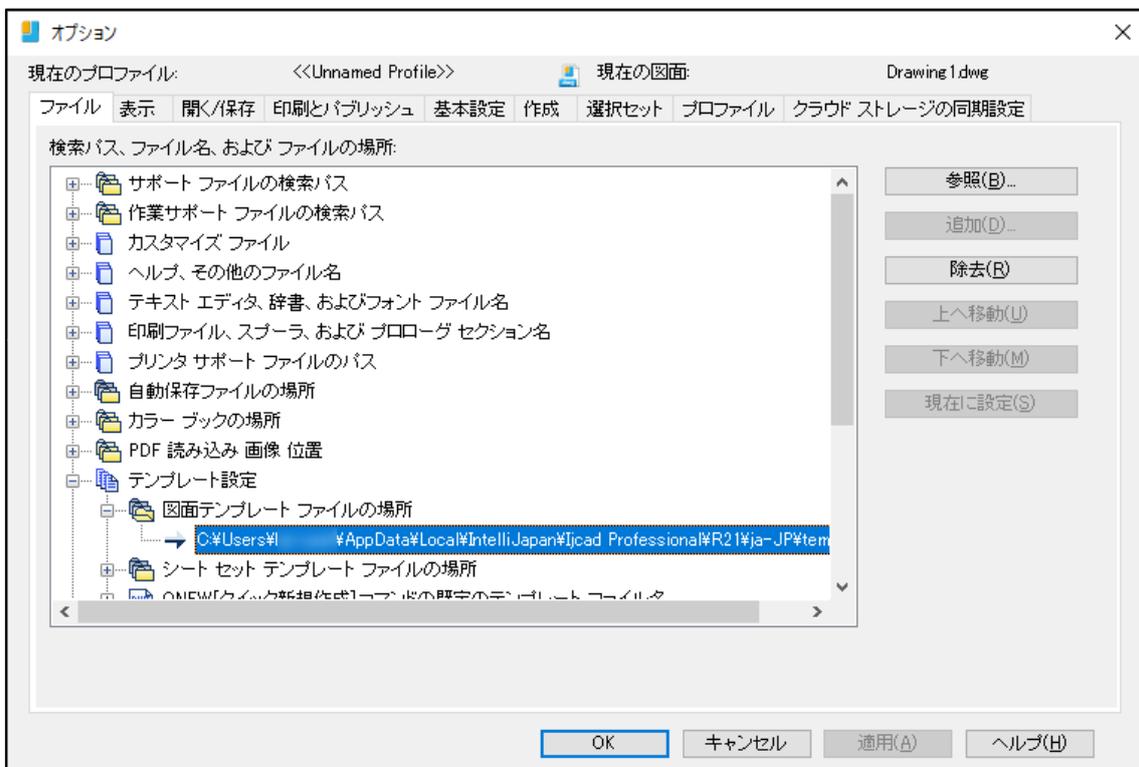
作図環境関連のファイル

テンプレート (.dwt) ファイルの移行

テンプレートファイル (.dwt) は、IJCAD で利用することができます。

IJCAD のテンプレートフォルダにテンプレートファイルをコピーするか、オプションの「図面テンプレートファイルの場所」に利用中のテンプレートフォルダを設定することで利用可能です。

▼図面テンプレートファイルの場所



フォントの移行

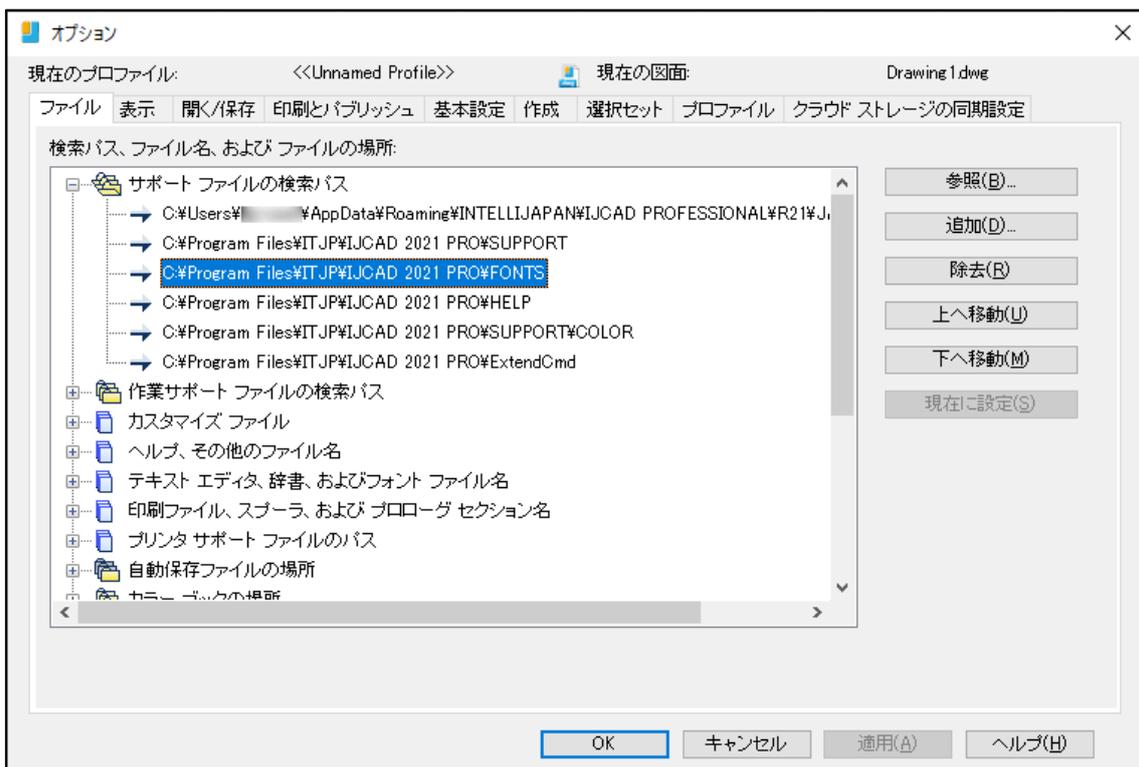
フォントファイルのうち TrueType フォントについては、特に設定をする必要はありません。AutoCAD と同様に、Windows にインストールされているフォントが利用できます。

SHX 形式のフォントは IJCAD で利用することができます。AutoCAD に標準で用意されているものと同名の SHX フォントが IJCAD でも搭載されているため、多くの場合は設定しなくても文字化けせずに表示できます。

ただし、IJCAD の SHX フォントは、AutoCAD に搭載されている SHX フォントとは細かな位置やサイズ、字形のほか、縦書き・横書きの対応に差があります。

自作または購入したフォントファイルを導入されていた場合は、IJCAD のフォントフォルダにコピーするか、「サポートファイルの検索パス」にフォルダを設定することで利用可能です。

▼フォントファイルのフォルダ



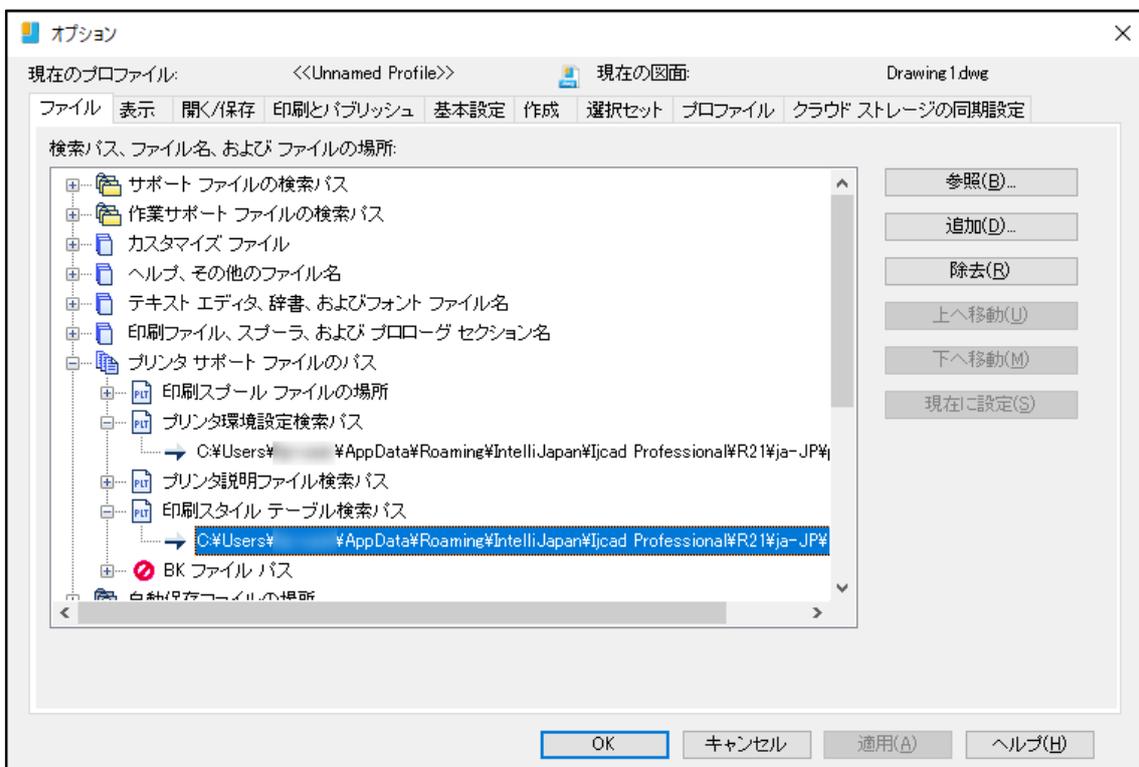
印刷スタイルテーブル (.ctb/.stb) ファイルの移行

印刷スタイルテーブル (.ctb/.stb) ファイルは、IJCAD で利用することができます。

IJCAD の印刷スタイルテーブルフォルダに、印刷スタイルファイルをコピーするか、オプションの「印刷スタイルテーブル検索パス」に利用中の印刷スタイルフォルダを設定することで利用可能です。

印刷スタイルフォルダの表示は、[_stylesmanager] コマンドを実行して表示することができます。

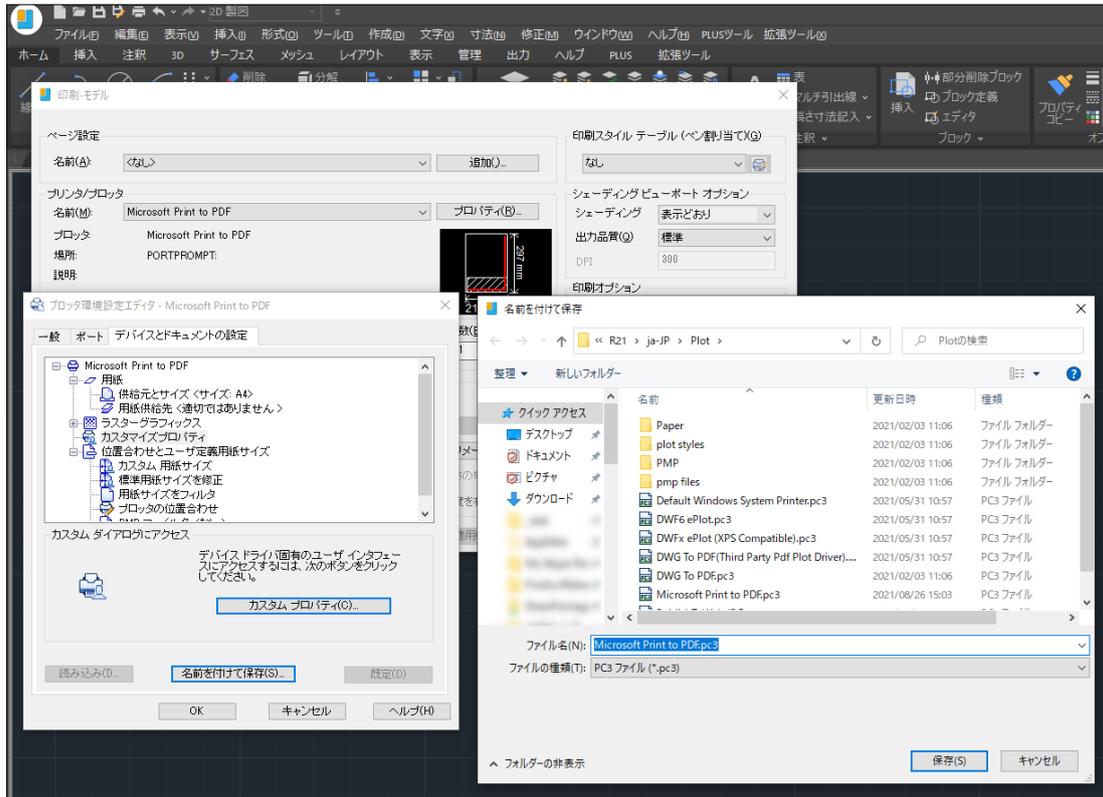
▼印刷スタイルテーブル検索パス の場所



プリンタの環境設定 (.pc3/) と説明 (.pmp) ファイルの移行

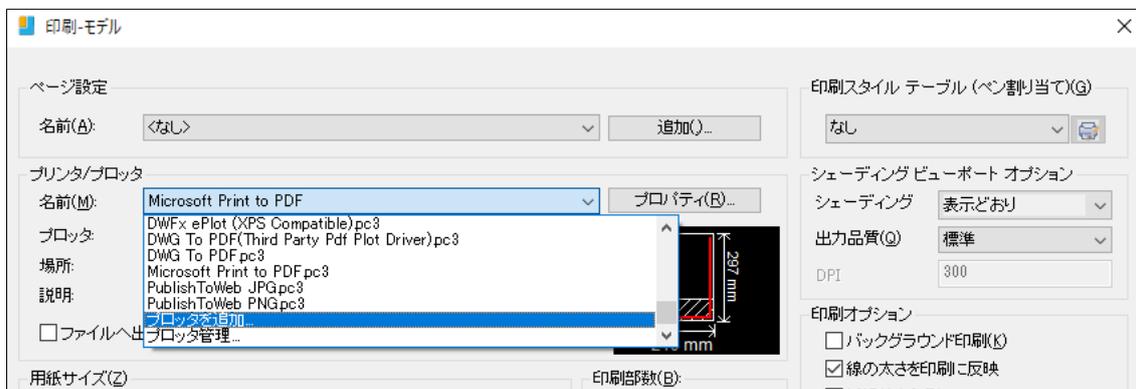
IJCAD にも印刷に関する設定ファイルはありますが、AutoCAD で作成および使用していた .pc3 や.pmp のファイルは、IJCAD では利用できません。プリンタの設定は、IJCAD 上で作成し直すことをおすすめします。

▼プリンタ環境設定ファイルの保存例



pc3 ファイルを作成するときは、印刷コマンド、またはページ設定コマンドのダイアログにある [プロッタを追加] から行います。

▼プロッタを追加 の場所



線種ファイル (.lin) の移行

AutoCAD に標準で搭載されている線種は、IJCAD にも同様に搭載されています。

自作または購入した線種ファイルを導入されていた場合は、線種管理 [_linetype] コマンドから「.lin」ファイルと読み込みたい線種を選択して利用することができます。

- ◆ acad.lin ・ acadlt.lin に相当するファイルは、gcad.lin です。
- ◆ acadiso.lin ・ acadltiso.lin に相当するファイルは gcadiso.lin です。

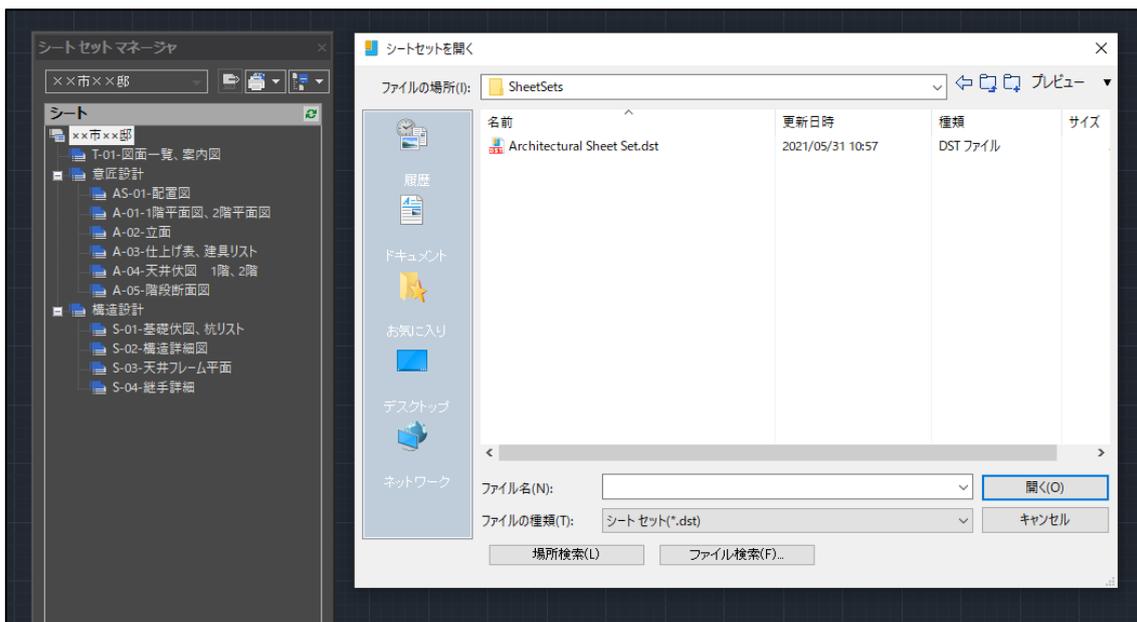
シートリスト (.dsd) ファイルの移行

パブリッシュなどで使用するシートリスト (.dsd) ファイルは IJCAD で使用することができます。

シートセット (.dst) ファイルの移行

シートセット (.dst) ファイルは、IJCAD で使用可能です。

▼シートセットファイルを開く



メニューカスタマイズ関連のファイル

インターフェース (.cui/.cuix) ファイルの移行

インターフェース (.cui/.cuix) ファイルは、部分カスタマイズファイルという形で IJCAD に読み込むことができます。[CUI] コマンドにてカスタマイズできます。

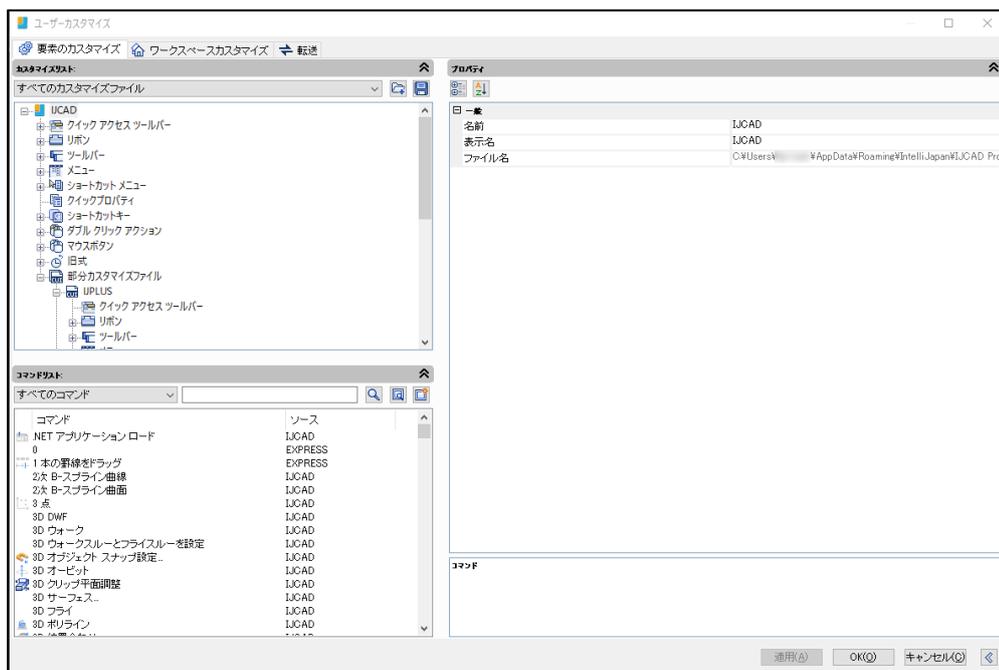
(.cui ファイルを読み込んだ場合は、cuix ファイルが生成されます。)

ただし、メニューマクロやアイコンの名前などは AutoCAD とは異なるため、各項目の内容は編集する必要があります。その他、以下の制限があります。

制限事項

- ◆ IJCAD で対応していないリボンコントロールは利用できません。
- ◆ ツールバーの複数段階のフライアウト（フライアウトからフライアウトの表示）には未対応です。
- ◆ ロールオーバーツールチップの設定は未対応です。
- ◆ 拡張ヘルプファイルの設定は未対応です。
- ◆ LISP ファイルの設定は未対応です。（アプリケーションロードに設定します。）

▼CUI（ユーザーカスタマイズ）



旧式メニュー (.mnu/.mns) ファイルの移行

旧式メニュー (.mnu/.mns) ファイルは、[CUI] コマンドまたは [MENULOAD] コマンドから IJCAD に読み込むことができます。(読み込むと、cuix ファイルが生成されます。)

ただし、メニューマクロやアイコンの名前などは AutoCAD とは異なるため、各項目の内容は編集する必要があります。

なお、旧式のスクリーンメニューには、近年の AutoCAD と同様に対応していません。

メニューにおけるマクロの記述について

AutoCAD LT のメニューカスタマイズでよく利用されている「\$M=」で始まる DIESEL 式のマクロは、IJCAD で利用可能です。ただし、以下の制限があります。

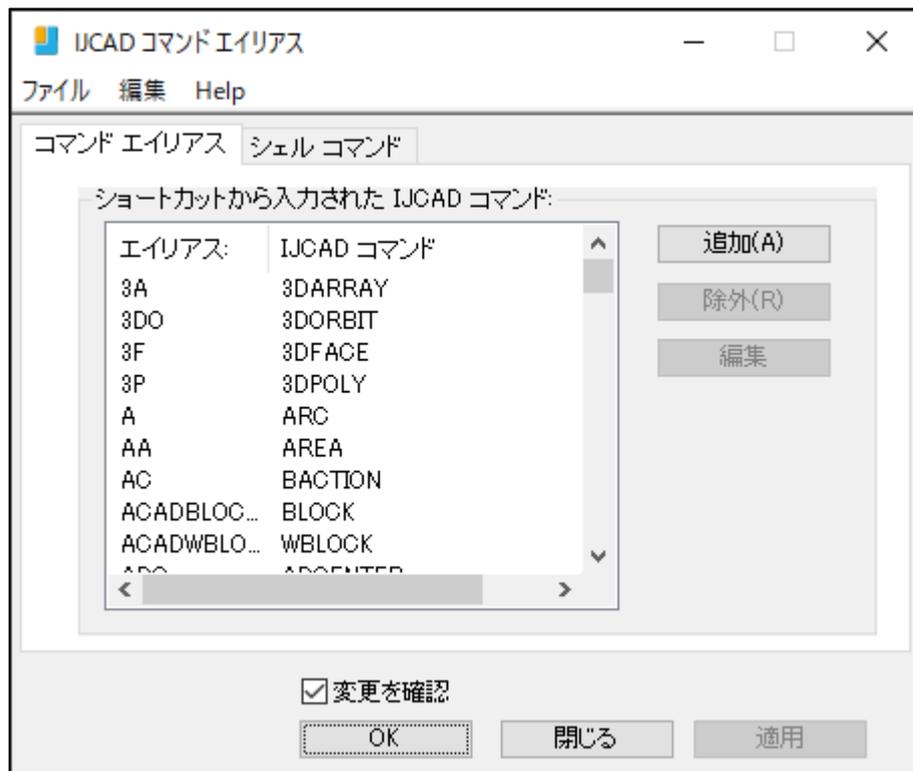
制限事項

- ◆ IJCAD では、「\$M=」を複数使った DIESEL 式の評価を行うマクロを作成できません。こうしたマクロを移行したい場合は、LISP で処理することをご検討ください。
- ◆ \$ (ドル記号) 記号や ¥ (円記号) は、文字列扱いの "" の間で指定したような記述でも制御文字コードとして扱われるため、メニューマクロ内から追い出した形で (スクリプトや LISP ファイルにして) 実行する必要があります。
- ◆ menucmd の LISP 関数を使ってメニューを動的に変更することはできません。
- ◆ ^C、^P などの制御コードは利用できますが、^H、^I、^D、^Q、の制御コードは使用できません。

コマンドエイリアス (.pgp) ファイルの移行

コマンドエイリアス (.pgp) ファイルは IJCAD で利用することができます。.pgp ファイルは、[_AliasEdit] コマンドでカスタマイズすることができます。

▼AliasEdit コマンドのダイアログ



使用していた AutoCAD のバージョンによっては、IJCAD で対応していないコマンドがありますので、IJCAD の pgp ファイルを書き出ししてから、AutoCAD でカスタマイズしている内容をマージすることをおすすめいたします。

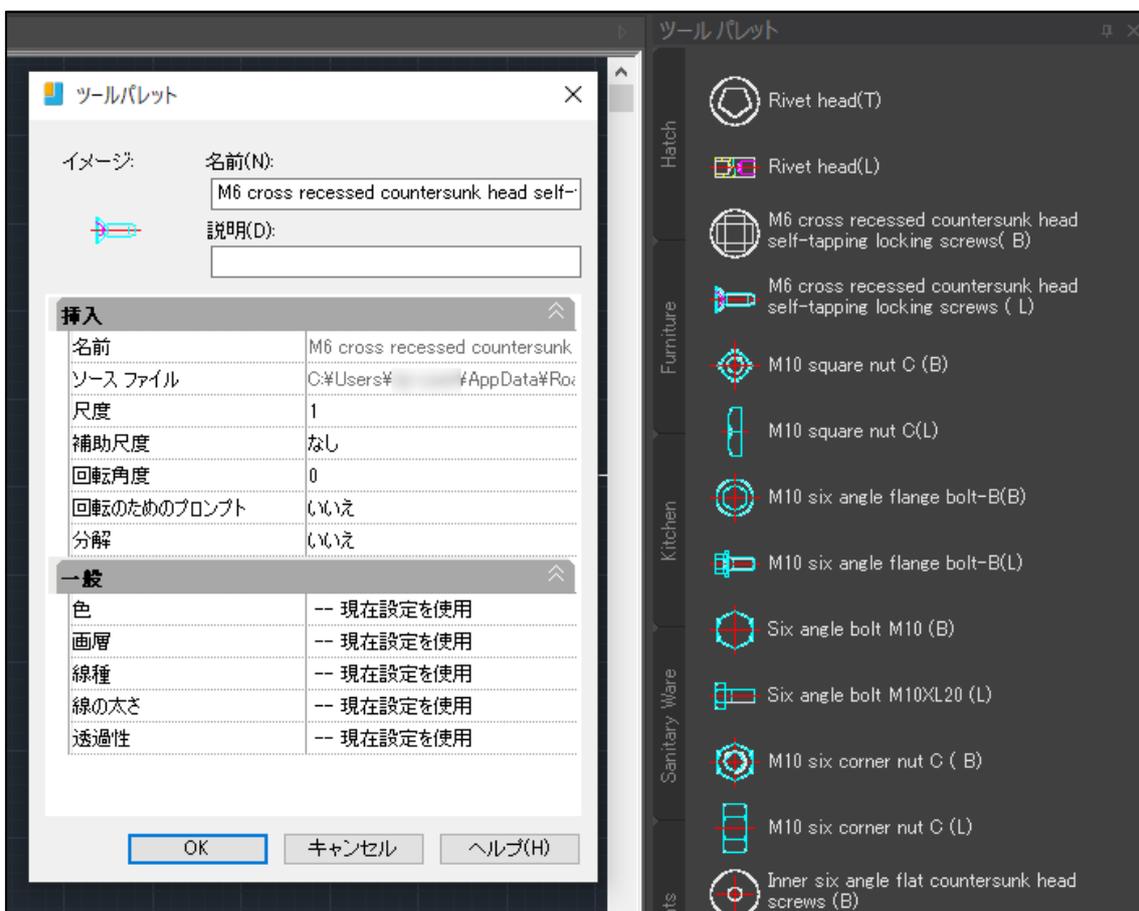
- ◆ acad.pgp ・ acadltd.pgp ファイルに相当するファイルは、 gcad.pgp です。

ツールパレットの移行

IJCAD にもツールパレット機能がありますが、ツールパレットのカタログファイルは AutoCAD と互換性がありません。IJCAD で使用する場合は、IJCAD 上で作成し直す必要があります。

なお、ブロックファイルの登録については、エクスプローラからのドラッグ&ドロップでまとめて登録できます。

▼プロパティ (左) とツールパレット (右)



プロファイル (.arg) ファイルの移行

IJCAD にもプロファイルの機能がありますが、AutoCAD で書き出されたプロファイル (.arg) は、AutoCAD のソフトウェアに関連した設定用であるため、IJCAD では利用できません。

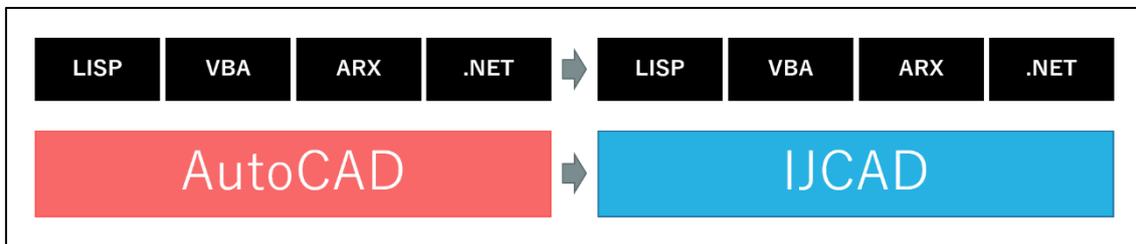
開発 API を使用したカスタマイズの移行（移植）

（AutoCAD LT からの移行の場合は、この項目は関係ありません。）

開発 API を使用したカスタマイズプログラムの多くは、IJCAD へ移植することができるため、AutoCAD で構築した資産を捨てることなく IJCAD へ流用して活用することができます。

カスタマイズプログラムの移植は、API の種類やプログラムの内容により改修が必要なボリュームに幅があります。

▼対応する API のイメージ



また、開発 API を使用したプログラムは、IJCAD の LT グレードではご利用いただけません。AutoCAD で開発 API を使用しているカスタマイズを IJCAD に移行する場合は、**STD 以上のグレードの IJCAD を使用する必要があります**のでご注意ください。

製品には添付されていませんが、IJCAD 開発者向けのヘルプドキュメントを用意しています。ヘルプセンターの下記ページからダウンロードできます。

- ◆ 開発 API（SDK）に関するドキュメントはありますか？

<https://support.ijcad.jp/hc/ja/articles/201373769>

なお、本書では移行時の要点のみ説明しています。各 API の詳細については、上記のドキュメントやヘルプセンターなどの web サイトの情報を参照してください。

LISP ファイルの移行

LISP プログラム (.lsp, .dcl) ファイルは、IJCAD で利用可能です。開発 API の中では一番改修が少なくすむ言語で、場合によっては AutoCAD で使用していたコードを一切編集せずに利用できます。

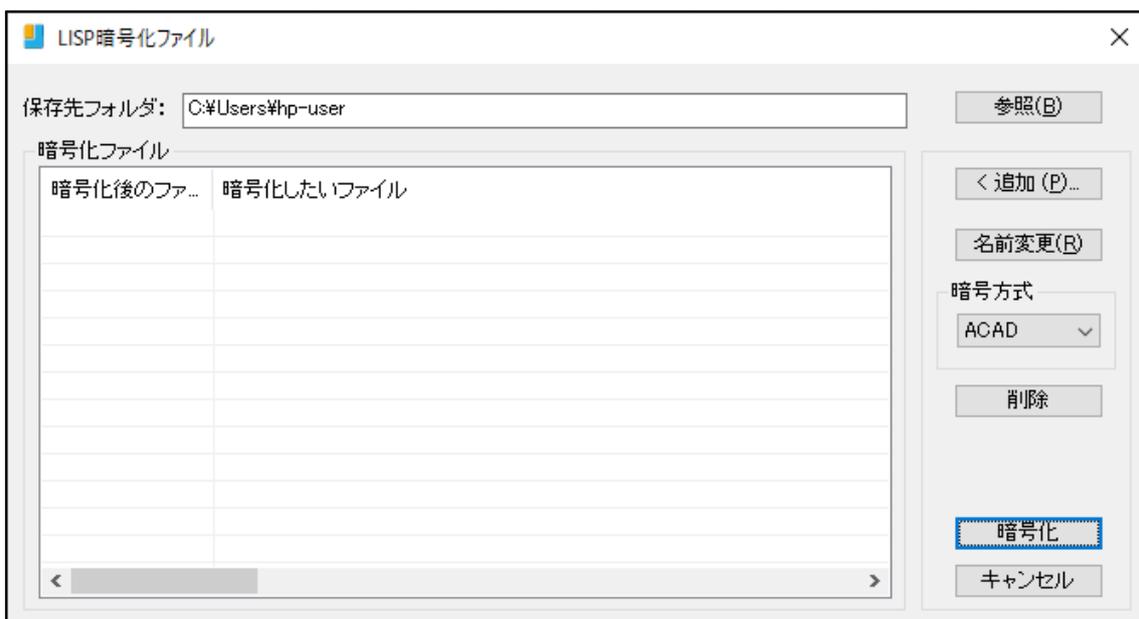
LISP プログラムの自動ロードにおいて、AutoCAD の acad.lsp、acaddoc.lsp に相当するものは、gcad.lsp ファイルとなります。IJCAD では、起動時とドキュメントオープン時で自動ロードの仕組みが分かれていないため、AutoCAD において acaddoc.lsp に記載していたコードは、gcad.lsp に記述して IJCAD のシステム変数 acadlspasdoc を 1 に設定してご利用ください。vl-, vlx-, vlr-, vla- の接頭詞で始まる各種の関数も使用可能です。

IJCAD には、AutoCAD にある、VisualLISP IDE のようなものはありませんので、ソースコードは一般的なエディタで編集します。なお、AutoCAD でコンパイルされた、.fas、.vlx のファイルも読み込み可能ですが、IJCAD 上でのコンパイル/デコンパイルはできませんので、修正が必要な場合は、.fas、.vlx 化する前の元のソースコードが必要となります。

IJCAD 用に LISP プログラムを暗号化したい場合は、LISP 暗号化 (_encrylisp) コマンドを使用します。

暗号方式で、ACAD 以外を選択すると、IJCAD 用となります。暗号方式“ACAD”は AutoCAD の protect.exe でコンパイルしたものと同様の暗号方式です。

▼Encrylisp コマンドのダイアログ



VBA プロジェクトの移行

VBA で作成された VBA プロジェクト (.dvb) ファイルは IJCAD ではそのままでは使用できません。(IJCAD の VBA のプロジェクトファイルは vbi ファイルとなります。)

ただし、VBA のコードレベルでは高い互換性があるため、AutoCAD で使用していた、移行したいソースファイルをエクスポートし、IJCAD の VBA プロジェクトへソースをインポートすることで流用することができます。

なお、VBA では、CAD に関する変数の型に違いがあるため置き換えが必要になります。

◆ 例:

AcadApplication	→	GcadApplication
AcadEntity	→	GcadEntity
acWhite	→	gcWhite

- ◆ "Acad"の部分を"Gcad"に、"ac"の部分を"gc"に変更する必要があります。
- ◆ "AcDbLine"や"AcDbCircle"などのオブジェクト名に関してはそのまま問題ありません。

なお、VBA は IJCAD の 64bit 版にはありませんので、VBA を使用する場合は、IJCAD の 32bit 版を使用する必要があります。64bit 版で Visual Basic の言語を使用したカスタマイズを行いたい場合は、.NET API を Visual Basic で使用する方向で移植を検討することをおすすめします。

ObjectARX プログラムの移行

IJCAD では、ObjectARX と同様な API として GRX API が用意されています。

AutoCAD 用にコンパイルされた .arx、.crx のファイルをそのまま IJCAD に読み込むことはできませんが、コードレベルでは高い互換性があるため、ソースコードを IJCAD 用に改修して IJCAD 用にコンパイルすることで移行することができます。関数名や変数名も互換を持たせているため、最低限の変更で動作するケースもあります。IJCAD では、Visual Studio 2010 にて開発します。

なお、プログラムは、ユニコード対応が必要ですので、AutoCAD 2007 以前の非ユニコードな ObjectARX プログラムは、ユニコード対応の改修も合わせて必要ですのでご注意ください。

.net プログラムの移行

AutoCAD 用にコンパイルされた、.net の .dll プログラムファイルをそのまま IJCAD で読み込むことはできません。

ただし、コードレベルでは高い互換性があるため、VB や C# などの .net ソースコードを IJCAD 用に改修してコンパイルすることで利用可能です。

IJCAD 2020 以降の製品は .Net Framework 4.8 をターゲットに指定して開発します。

ARX (GRX) /ADS、.NET の API を使用した開発を行う場合の注意点

- ◆ ARX と .NET の SDK を使用した開発については、Open Design Alliance の Teigha API を使用する関係から、機密保持に関する取り決めがございます。
利用される方は IJCAD の営業窓口へお問い合わせください。
- ◆ ARX、.NET とともに、ソフトウェアの構造的な違いなどの理由から、未実装な関数や AutoCAD 上での挙動とは異なるケースがあります。

ファイル種類と移行可否 一覧

本書で紹介したファイル種類と、移行可否を一覧にまとめました。詳細は各ページをご確認ください。

種類	移行	補足
作図環境関連		
テンプレート (.dwt)	○	
フォント (.shx など)	○/×	○：作成または購入したフォント ×：AutoCAD デフォルトのフォント
印刷スタイルテーブル (.ctb/.stb)	○	
プリンタ環境設定 (.pc3) /説明 (.pmp)	×	
線種 (.lin)	○	
シートリスト (.dsd)	○	
シートセット (.dst)	○	
メニューカスタマイズ関連		
インターフェース (.cui/.cuix)	△	部分カスタマイズファイルとして可
旧式メニュー (.mnu/.mns)	△	部分カスタマイズファイルとして可
メニューマクロ	△	LISP は○、DIESEL 式は一部制限あり
コマンドエイリアス (.pgp)	○	
ツールパレット	×	
プロファイル (.arg)	×	
開発 API を使用したカスタマイズ (移植)		
LISP	○	一部書き直しが必要なものもあり
VBA プロジェクト	×	
ObjectARX プログラム	×	
.net プログラム	×	

システムメトリックス株式会社

Web : <https://www.ijcad.jp/>
ヘルプセンター（お問い合わせ） : <https://support.ijcad.jp/hc/ja/>